

2020 秋 四国山巡り

日程：2020 年 9 月 30 日～10 月 4 日

山域：剣山・三嶺(剣山・祖谷山系)、西赤石岳・東赤石岳(赤石山系)、石鎚山(石鎚山系)

行者：S 藤 t、S 藤 m、N 島

目的：秋の四国連山巡り

9 月 30 日(水)～10 月 1 日 剣山・三嶺縦走

1 日目 (9/30)

天候：曇り時々雨

10:40 見ノ越→1220 頂上ヒュッテ 12:50→13:00 剣山頂上 13:10→11:40 次郎笈峠 11:45→
14:10 次郎笈 14:20→15:40 丸山 15:50→06:15 丸石避難小屋(泊)

初日、登山口に登山届提出場所が見当たらない、「えー 登山ポスト？ 聞いたことないな
ー」とは、付近の土産物店主、まーNET サービスで提出はしたのだが。



大剣神社に近付くころ、まだほんの少しずつで、画像では表せないほどではあるが、それでもナナカマドの実は赤く染まり、秋色の気配を感じさせる

見事な大岩と刀掛け岩が印象的な大剣神社



頂上ヒュッテ辺りから雨が降り出す

広大な山頂広場には円形の立派なしめ縄が祀られている



一瞬切れるガスの間から次郎笈へ続く笹尾根がまるで絵のようにその美しさを垣間見せる



お世話になる避難小屋、雨露の笹漕ぎで濡れた靴下脱ぐだけで何とも気持ちよいことか

剣山・三嶺縦走 2日目 (10/1)

天候：晴れ時々曇り

05:30 丸石避難小屋→06:30 高の瀬 06:40→08:20 平和丸 08:30→09:05 白髪避難小屋 09:15
11:00 カヤハゲ(東熊山)11:10→12:10 三嶺 12:40→12:50 避難小屋→15:00 名頃登山口着

目覚めると、夜来の雨はいつの間にか上がっていた

闇で霧の中、ヘッドランプで照らし歩き始める、日本有数のオオヤマレンゲ自生地と記された高ノ瀬付近には、広大な獣害ネットが張めぐらされている

花も大事だが締め出され、そこにある餌にあたる事が出来ない鹿も可哀そうなものだ



れた



山を降り、今宵の宿とした祖谷溪キャンプ場では、焚火をしてすっかり濡れてしまった靴を乾かす

10月2日(金)

西赤石岳・東赤石岳

天候：晴れ

07:30 日浦登山口→09:50 銅山越 09:55→10:10 東山 10:15→11:30 西赤石山 11:50→12:20 物住山 12:45→13:10 前赤石山 13:20→14:00 赤石山荘 14:05→14:20 八巻山 14:34→14:50 東赤石山 15:00→15:30 赤石山荘 15:40→17:55 筏津登山口駐車場

道々に残る銅山遺構、かつて1万人もの人々が銅算出の為、ここを生活の拠点としていたという



その歴史に思いを馳せながら登山道を歩む、謂れを記す案内板、石垣、水場、坑道等々を眺め、読み、映していると知らぬ間に時が予定を上回っている

蛇の紋様を浮かばせる、切り立つ大岩の塊は容易に人を寄せ付けない、なるほどそれは紛れもなく西赤石、東赤石という石の山だった



10月3日(土) 瓶ヶ森 (1 山目) 伊予富士 (2 山目) 黒森山 (3 山目)

天候：晴れ

瓶ヶ森 (1 山目)

08:20 瓶ヶ森駐車場→08:55 男山 09:05→09:15 瓶ヶ森 0940→09:55 瓶ヶ森避難小屋→

10:15 瓶ヶ森駐車場



女山 (瓶ヶ森)

伊予富士・東黒森（2・3 山目）

天候：晴れ

10:30 伊予富士登山口→11:00 伊予富士 12:00→12:40 東黒森 13:00→13:30 伊予富士登山口



男山、女山、伊予富士、山名を見る限り、何とも手ごわそうな響きを感じず、その期待？を覆させられる二つの山、実は何とも優雅な山歩きを感じさせる山、その優しさには、もう一度行ってみたい、そんな気にさせる山ではないかと思う。

10月4日(日)

晴れ一時曇り

石鎚山

05:50 石鎚山温泉駐車場→06:10 西之川登山口 06:20→10:15 天柱石 10:35→11:40 夜明峠
12:00→12:20 二の鎖元小屋 12:40→12:50 石鎚山 13:00→13:25 天狗岳 13:55→14:20 二の鎖
元小屋 14:25→14:45 夜明峠→14:55 前社ヶ森 15:00→17:00 山頂成就駅⇒17:10 石鎚山温泉
着駐車場

西之川登山口から歩き始める、近年このルートを使う登山者は少ないという、溪沿いに辿る道はそこかしこが崩壊崩落し、ところどころで道を失いながらも、水量豊に落ちる滝や蒼く染める淵、その溪相に思わず吸い寄せられそうになりながらも歩めば、やがてまるで石で出来た槍のごとく天を突かんと立つ天柱石に度肝を抜かれながら更に高度を目指す

やがて樹々の隙間から赤や黄に染まる石鎚山が見え始める、ようやく樹林帯から開けた尾根道、夜明かし峠にでる、メーンの登山道とあって、先程までと違いここは多くの登山者が行きかう

切り立つ北面は紅葉模様に染まる石鎚山、少し霧が掛かるも何とも感動の一瞬



二の鎖元小屋付近からガスの隙間から昨日登った山々が見える、此方から眺めると大きく広がる瓶ヶ森の姿に改めてその美しさを知った。

既に正午も過ぎ、迂回路には多くの登山者が下山に向かい、モミジに染まる三の鎖を超えると弥山、石鎚本宮頂上社に参拝、



南西に延びる尖頭が錦秋の天狗岳、この時間から向かう人も少なくなったそこに向かう、振り返ると真っ赤に染まるドウザンツツジの向こうに石鎚神社があった。



こうして4泊5日の四国の山巡りを振り返ると、笹尾根、竜胆の山々、笹の絨毯に覆われ一見優しい山並み、実はその絨毯の下は意外にも岩の山々、何よりもイメージしていたのと大きく違ったのは、四国はなんと山深い地であろうかとの思いだった。